

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	1070201015		
法人名	医療法人社団 醫光会		
事業所名	グループホーム うさぎ		
所在地	群馬県高崎市 上豊岡町 896-2		
自己評価作成日	令和4年7月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和4年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の老人保健施設が隣接しているが、今はコロナ禍であまり行き来をひかえているが、歯科衛生士等の応援や、訪問看護との連携や協力医療機関である医師と電話で相談出来る環境にあると思います。また、往診に来ていただいたり、医療面で入居者様が安心して生活でき、職員も安心して仕事ができる環境にあると思います。今はコロナ禍で、地域の方々のボランティア活動の制限や、外出イベントの制限がされていますが、利用者様が、ゆっくりと過ごせるように、時間に余裕を持って行動できるように心掛けています。レクリエーション等を通して、楽しみながら手指の運動になるように努めています。また、DVDやビデオ等の体操が豊富にあるので活用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、日頃から電話や面会、通信である「うさぎだより」などを通じ、利用者の様子などを家族に説明し、情報の共有に努めると共に、家族からの足腰の運動を取り入れてほしいなどの要望に積極的に応え、反映させている。また、職員からの意見の反映にも努め、勤務中における休みを順番に取ることに付いての提案、感染対策に関わる提案などが活発に出されており、管理者を中心に話し合わせ、運営に活かしている。その他、介護計画に沿った日々のケア・記録に努めると共に、毎月の担当者会議においては、利用者の状況・課題などを担当制による担当職員がまとめたものを中心に、ケアマネジャーを交え職員間で話し合い、介護計画の見直し等につなげており、チームでの介護計画の作成とモニタリングが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症になっても住み慣れた地域で安心・安全に過ごせるように支援していきます。認知症の利用者様や家族の相談窓口として、地域に貢献していきたいと思ひます。常に利用者様を中心としたケアの実施に取り組んでいます。	法人の理念を基本に、事業所独自の理念や目標を掲げ、理念の実践に努めている。時々話し合い、実践内容について振り返っている。	事業所の理念と目標などを明確に区分し、職員がより一層共通理解が図れることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナ禍で、地域との交流が持てない状況が続いているが、電話や書面での運営推進会議の開催や、徐々に交流が開催されたら、習い事等できるようになると思ひます。	コロナ禍前は、生け花、お茶、書道など、地域のボランティアが来所し利用者と交流していた。また、法人の母体となっているケアピースを拠点に行われる交流イベントに参加していたが、コロナ禍において中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は、今はコロナ禍で、書面での開催となっていますが、事業所内の研修会の資料や実施報告を送らせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今は、運営推進会議は、書面での開催となっていますが、利用者様の近況報告、事故報告等を書面で行っています。	運営推進会議は、区長、民生委員、家族・市職員、高齢者安心センターの職員が加わり、行事報告・地域との交流・利用者の状況・職員の状況・事故等の報告・今後の予定などの運営状況について説明し、意見交換を行っているが、コロナ禍においては、書面開催となり、議事録をメンバーに送っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	感染防止の為、書面や電話のみの対応をしています。	市の担当者とは、運営推進会議において直接情報交換を行っていたが書面開催となりできず、コロナウイルス感染症対策関連の情報などは、法人から伝達されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の利用者様の対策として、玄関の施錠を行っている場合がある。	身体拘束をしないケアを目指して取り組んでいる。コロナ禍前は、法人内の研修会に参加して理解を深めていたが、現在は配布資料などを利用して知識を深めている。言葉の抑制については、職員同士で注意し合って回避に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で、声を掛け合っている。また、職員には、高齢者虐待に関する、新聞やニュースについて話し合い、話題に取り上げて、防止策を話し合っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されている方はいませんが、リモートの研修会や勉強会を活用して学び、制度の必要性を把握するように考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定時には、御家族や利用者様に十分な説明をして、理解いただいております。また、利用者様や家人の意向も伺うようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や来訪のときにお話を伺ったりして、管理者やケアマネ、職員同士で情報の共有をして、その都度話し合っている。	事業所は、電話や面会、「うさぎだより」などを通じ、利用者の様子などを家族に伝え、情報の共有に努めると共に、家族からの足腰の運動を取り入れて欲しいとの要望などに積極的に応え、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議で職員同士で提案をして、話し合って決めている。	職員が、意見、要望、提案などを出しやすい環境づくりができており、勤務中における休みを順番に取ることについての提案、感染対策にかかわる提案などが活発に出され、管理者を中心に話し合われ、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、目標を持って、邁進出来る様に、給与水準、労働時間、職場環境の整備に努め、職員の個々の努力、実績を把握して、評価をしていきたいと思う。また、職員の意見を聞くようにしている。働きやすい環境作りをしたいと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員個人の実際に行っているケアの力量を把握し、それに見合ったリモート等での研修に参加したり、研修の情報を配布して機会をもうけ、個々のケアの向上を目指しています。また、個々に研修を受けている職員もいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	書面や電話でのやり取りをしています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前は、ご本人と面接をして困りごとや要望を聞くのですが、現在は、コロナ禍の為、利用者様との交流の中で、話を聞きながら不安を解消できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、面談を行い、要望や支援の方向性を話し合い、また、契約の時の聞き取りや話し合いの中から、適切な支援を提供できるように提案する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始するときに、ご本人と家族の話をよく聞き、適切な支援を見極めて、提供できるように努めるとともに、他のサービスも検討し、説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、その方の能力に応じて、簡単な家事、洗濯たたみやゴミ捨て等、職員と一緒に、協力して暮らしている関係を築いている。とともに対等な関係を築けるように意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人の来苑時や、電話等で、ご本人の状態の報告や近況報告をさせて頂いています。また、本人に関する相談をして、支援に参加していただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、外出は制限されていますが、電話やガラス越し面会等で交流できますし、居室に、家族や、親しい人や場所の写真飾りを飾っています。	馴染みの人との関係継続が途切れると利用者にとっては不安のもとになるという認識のもと、支援に取り組んでいる。家族、親せき、友人などが面会に訪れていたが、コロナ禍においては、電話や手紙などで利用者とやり取りができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えを定期的に行う等の対策を行い、柔軟に対応出来る様にしている。。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了したご家族様や利用者様の問い合わせや質問等にも、可能な限り丁寧に対応させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人1人の意向や、希望を尊重し、その方に合った支援をしています。本人様に話を聞き、出来るだけ本人の意向に添うようにしています。	本人から話を聞くなどし、意向や希望を尊重して、折り紙の好きな人、編み物が好きな人などに対しては、職員がサポートし、行動できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始時にご本人様の生活歴や環境、病歴の情報を職員間で把握して対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の個々に合った支援を心掛けて、同じ支援にならないようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、ご本人、関係者各位と意見交換して、話し合い、定期的に部署会議を行い、話し合いの場を設けて、注意点などを話し合っている。	介護計画に沿った日々のケア・記録に努めると共に、毎月の担当者会議においては、利用者の状況・課題などを担当制による担当職員がまとめたものを中心に、ケアマネジャーを交え、職員間で話し合い、介護計画の見直し等につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、個々に日々の様子や気付き、ケアの実施、特記事項等を職員間で話し合い、担当者やケアマネジャーも交えて話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にその時々に変化する個々のニーズに対応出来る様にとともに、必要なものを考え、問題提起している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、現在は活用できていないが、地域資源を把握して、活用できるように支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を伺い、納得を得たかかりつけ医、医療機関を利用している。定期的に往診して頂き、必要に応じて連絡を取っている。	月1回協力医が往診しており、大方の利用者が受診している。歯科協力医も必要に応じ往診している。専門医を受診する場合は、家族が原則付き添っている。週に1回、訪問看護師が来所し、日頃の健康管理のサポート等を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪看の来苑時に、その都度、利用者様の状態を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週1回の訪看の来苑時に、その都度、利用者様の状態を報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期に係わる書類を説明し署名を頂いている。適切な支援が出来る様に、本人、家族、関係者と話し合い、チームケアに取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針について、看取り支援も含め、家族に説明している。状態変化に応じ、家族や医師等と相談し、家族の意向に沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は講習を行ったが、今はコロナ禍で、ホーム内の勉強会や、資料等で手順を話し合い、緊急時の対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で、消防署員は出動できないが、火災、風災害を想定した避難訓練を春と秋に行っている。	コロナ禍においては、消防署の立会いはなく、防災業者の立会いにより、夜間想定も取入れて初期消火・通報・避難誘導の一連の火災訓練を行っている。このほか、風水害の訓練も行っており、近年実際に法人の施設に避難した経緯もある。	それぞれの災害対策について、職員間で話し合い、マニュアルづくりを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者様の人格を損ねない様な支援を行うとともに、職員間で連携をして、不適切な言葉使い等ないようにこえを掛け合っている。	職員は、声を荒げないなど人格を損ねないようにすると共に、利用者とコミュニケーションを図りながら、本人の希望・好みに沿って自己決定できるようにしている。個々のペースを大切にし、本人の意向に沿った行動ができるように、個々人を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とコミュニケーションを図り、自己決定できるように、したい事出来る事を見極め尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にして、手伝いや体操、レクリエーションへの参加は、無理せず本人の意思に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望、好みに添うように選んで頂いています。職員が手伝うこともあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みは大事にしています。食事の準備は職員が行っていますが、テーブル拭きは手伝って頂いています。また、イベント等のおやつ作りは、利用者様に作って頂いています。	朝食は事業所で、昼食は食材を業者から配達してもらい職員が調理し、夕食はチルド食品を利用して提供している。みそ汁は、朝食・夕食に提供している。利用者にはテーブル拭きなどできることをお願いし、おやつは利用者と一緒に作り、楽しみ場となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食、夕食は外部より食材が届き、栄養バランスの採れた食事を提供しています。好みや量は、個々に合わせています。食事量、水分量を記録に残しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人のできる方には、見守りを行い、できない方には、仕上げ磨きを介助者が行っています。また、歯科衛生士の月1回の口腔スクリーニングにて、指示に従い個々の状態の把握につとめています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個人の状態を把握して、夜はオムツの方でも昼間は、自力で排泄できるようにトイレ誘導し排泄を行っていただいています。	トイレでの排泄を基本に考え、夜間おむつの利用者も含め、日中は全員トイレで排泄できるよう支援している。排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄状況を把握し、定時と共に、適時トイレ誘導するなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の原因や影響を理解して、水分、食事、運動、医療機関連携して対応しています。排便の有無を記録に残し、職員が把握しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴で、出来るだけ利用者様の要望に沿った入浴を心掛けたいと思います。入りたくない時は無理をせずに翌日に入ってもらくこともあります。	利用者の希望する日に入浴できるようにしたり、入浴を拒否する利用者は日にちを変えたりシャワー浴にしたりするなどして、週2回は入浴できるよう支援している。入浴剤やゆず湯など季節のものを取り入れて、入浴を楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人に合ったリズムで生活して頂いています。昼食後、居室で休まれる方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服用している薬の名前や効力を職員は把握しています。現在ダブルチェックを行っています。服薬版に利用者名と薬の名前があり、確認をしながら服薬を行っています。また、記録にもサインを残しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴、好み、習い事を把握して、能力に応じた支援を行うように心掛けています。また、室内イベント等で楽しみながら、物作りをしたり、外気浴をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出イベントには出かけられませんが、希望があれば外気浴や散歩等を行っています。	コロナ禍においては、外出イベントは中断している。敷地内を職員が付き添い、外気浴や散歩を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、施設の方針で、個人の現金は預かっていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望は、その都度対応しています。家人の書いた手紙を持って来て質問する利用者様もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花が植えてあり、ホールには、季節ごとのレクリエーションで作る壁画作品や利用者様の写真を展示しています。また、快適な生活ができるように明るい環境作りを心掛けています。	ホールなどには、季節の花を題材にした貼り絵などや、行事等のスナップ写真が飾られ、季節感と生活感が味わえる空間となっている。また、ホールは、利用者の各種作品作りやおやつなどを作る場としても活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室で過ごされたり、ホールで席の配置に気を配り、ソファを置いて、利用者様同士で会話したり、くつろげる様に、配置、工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、家具の配置や、テレビ等を設置して快適に過ごしていただけるように配慮しています。	居室入り口には、花の名前と利用者の名前が表示されている。居室づくりは、本人や家族と相談して行い、家具のほか、テレビなどが配置され、家族の写真なども飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール等には、手すりが配置されていて、トイレも車いすの方も使用できるように広く、安心安全な生活ができるように工夫してあります。安全な配置を心掛けて、導線上に物を置かないように心がけています。		